

～「震災の記憶とウォーターフロントを巡る観光ウォーク」ルート沿いの歴史遺産紹介～

1. 花熊城跡

花熊城は 1574 年前後、兵庫津の防衛拠点として織田信長の家臣である有岡（伊丹）城主荒木村重によって築られました。やがて、村重が毛利方に寝返ったため、織田軍の有力武将池田恒興によって攻め落とされました（1580 年）。江戸時代岡山城主となった池田家にはこの功績を伝えるために描かれた花熊城の絵図が残っており（現岡山大学図書館蔵）、守屋閣のあった城の構造を知ることができます。落城後、この城の部材は兵庫津まで運ばれて新城である兵庫城の築城に使われたと伝わります。これまで、城の範囲内で数度の発掘調査が行われ、櫓などに使われていた瓦などが出土していますが、石垣などはまだ見つかっていません。

現在花隈公園に城のような石垣が見られますが、これは地下駐車場を造る際にこの地に花熊城があったことをイメージして、まったく新しく造られたものです。

2. 旧居留地から新港地区周辺の歴史遺産

神戸の近代化は明治元年開港により、外国人居留地とその周辺から広がりました。そのためこの地域には明治～昭和戦前期の神戸発展を物語る歴史遺産が数多く残されています。

外国人が住み、商売をするための自治区である居留地は、東は旧生田川の土手（現在の市役所西側の筋）、西は鯉川筋、北は西国街道（市役所北側の道）までの範囲で、その中では計画的な都市が造られました。1899 年居留地は日本に返還されましたが、それ以前から残る建物は旧神戸居留地十五番館（国重文、1880 年頃築）のみです。その後も商業地として発展し、大正から昭和初期に建てられた歴史的建造物が

周辺も含めて約 10 棟が残っています。また東遊園地（国登録名勝）は居留地の東に接して外国人のために造られた公園でした。

開港直前の幕末期に現在の東遊園地南側辺りに勝海舟により海軍操練所が設けられました。京橋南近くでは発掘調査により幕末期頃の防波堤とその上に築かれた開港直後に整備された神戸港第一波止場の港湾施設が見つかりました。

新港地区は明治末から大正期にかけて整備され、突堤近くには大規模な倉庫群が、1927年には神戸税関の現庁舎が建てられました。関東大震災後には生糸検査所(旧市立(1927)、旧国立(1932)、現KIITO)が設立され、これは主要輸出品であった絹輸出のための重要な施設でした。全国各地と船の貨物をつなぐための鉄道である臨港線はハーバーランドに終点湊川駅が、みなとのもり公園(神戸震災復興記念公園)には神戸港駅(小野浜駅)があり、各突堤まで線路が延びていました。公園内の語り継ぎ広場には、阪神淡路大震災で倒壊した旧第一勧業銀行神戸支店の石材があります。



旧居留地周辺の歴史的建造物

ウォーターフロントの再開発の動向

ウォーターフロントの最新情報



KOBE
CITY of DESIGN

KOBE WATERFRONT REGENERATION



2011

3月
「「港都 神戸」グランドデザイン」
策定

2012



2014

9月
神戸三宮フェリーターミナル
供用開始

2017 (開港150年)

4月
メリケンパークリニューアル
5月
新港第1突堤基部再開着手
7月
神戸ポートオアシス供用開始

2022

12月
「神戸ウォーターフロントビジョン」
策定

2024

4月
神戸ポートタワー
リニューアルオープン



2015

12月
ラ・スイートオーシャンズガーデン、
神戸みなと温泉 運 開業

2021

1月
Stage Felissimo開業
4月
ジーライオンアワーズビル開業
5月
㈱神戸ウォーターフロント開発
機構設立
10月
神戸ポートミュージアム開業

2023

1月
ベイシティタワーズ神戸WEST
竣工

2025

2月
ベイシティタワーズ神戸EAST竣工
3月
ラスライト・ルバンビル開業
4月
ジーライオンアリーナ神戸開業

